

翌 檜 新聞



志 寛 錬

第6号
2020.7.31
第74代
伊敷中生徒会



世のため 人のために

気づき、考え、実行する

青少年赤十字登録式

6月13日(土)、各クラスの教室で、青少年赤十字登録式が行われました。



代議員の進行により赤十字について学ぶ

今回は新型コロナウイルス感染症防止のため、各教室で赤十字について学びました。福祉について学びました。池田華恋さんは、「クイズで盛り上がったし、知識も増えたのでよかったです。私たちの学級目標に『優しさ』という言葉が入っている。目標を達成するためにも赤十字活動に積極的に取り組みたい。」と話していました。

今回新型コロナウイルス感染症防止のため、各教室で赤十字について学びました。福祉について学びました。池田華恋さんは、「クイズで盛り上がったし、知識も増えたのでよかったです。私たちの学級目標に『優しさ』という言葉が入っている。目標を達成するためにも赤十字活動に積極的に取り組みたい。」と話していました。

青少年赤十字の態度目標は「気づき・考え・実行する」です。この態度目標は教室の前面にも掲示してあります。身のまわりの様々な問題に気づく。自分には、どんなことができるのかを考えると、友達と協力しながら問題を解決する。この行動が習慣になると、私たちの環境や社会はよりよいものになります。

しかし、自分ができることを分かっているだけでも行動に移すことが面倒と思うときもあります。そんなときこそ、今回の登録式や態度目標を思い出しましょう。そして、世のため人のための思いをもとに、よりよい学校や地域を創っていきましょう。(宮ノ前那海)

活用しよう!
汎用的な資質・能力
二年生ソシオドラマ
6月18日(木)、学年朝会の際に二年生のソシオドラマ「僕たちが目指す汎用的な資質・能力」がありました。汎用的な資質・能力

FACE

卒業生 町田優斗さん



伊敷中では、八つの専門班があります。それぞれには、専門班があります。その中には、専門班があります。その中には、専門班があります。

有の活動があり、その班ならではの魅力があります。これまでの先輩たちの中には、専門班の仕事に魅力を感じ、3年間同じ専門班に所属し続けた人もいます。

今回は、そのうちの一人。昨年度卒業した町田優斗さんにインタビューしました。町田さんは3年間ずっと体育班に所属し、学年部長も務めました。

Q1 3年間体育班を希望し力とは伊敷中が目指す五つの力(課題発見力・情報活用・論理的思考力・協働する力・メタ認知)です。ソシオドラマを演じた2年4組牧之瀬ひなたさんは、「伊敷中の目指す力を改めて見直し、授業だけでなく学校生活の様々な場面でもルーブリックを活用できるように意識付けができたと思う。」と話していました。

汎用的な資質・能力を具体的に示したものととして全校生徒がルーブリックシートを持っていきます。このルーブリックシートを使ってソシオドラマをする二年生代議員



ルーブリックシートを使ってソシオドラマをする二年生代議員

生徒会の窓

今年、梅雨が長く、早く明けてほしいと思ってる人も多いでしょう。雨が降ると、登下校が大変だったり、気分が晴れなかつたりし、雨が続くことに不満を抱く人もいるかもしれません。宮崎中央新聞の水谷もひとさんは「天候は誰にもどうすることもできない。どうすることもできないことはそのまま受け止めるか、ポジティブに考えるのがいい。」と述べています。物事の悪い面や不運ばかりに焦点を合わせてしまう癖がついている人は、どうすることもできない天候も不快に思い、その他のことも不快だと感じる出来事に出会うことが多くなるそうです。「雨か、じゃあ傘を持っていこう」と現象をそのまま受け止めるか「雨か、ありがたい。農家の人は喜んでるだろう」とポジティブに受け止める。すると、それがそのまま人生に反映されると述べています。

日常生活の中でも様々な価値観の人がおり、また、様々なルールがあり、自分の思い通りにならないこともあるでしょう。そんなとき、あなたの受け止め方にはどのような癖がついていますか。雨で出掛けられない時間、自分の受け止め方の癖について振り返ってみるのもいいかもしれません。(中島知希)

コロナ募金 日本にも

私たち伊敷中生徒会も青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」を実践しています。その一つが全校生徒で行った「中国救うぞ大作戦」です。学校での募金活動のほか、近隣のスーパーマーケットでも募金を行いました。集まった募金を日中友好協会を通じて中国へ送られたことは以前の翌檜新聞でもお伝えしました。中国だけでなく、日本でもコロナ感染が広がっていることから、半分は、日本への募金として、社会福祉法人中央共同募金会へ送りました。日常生活の中でも「気づき、考え、実行する」を意識して行動していきましょう。(中村陽菜)

- ご寄付ご支援をいただいた企業・団体の皆さま (50音順・敬称略)
- ・有限会社アトリエカオル
- ・アムジェン株式会社
- ・株式会社アローズ
- ・株式会社アンパレラ・ジャパン
- ・伊敷中学校 生徒会

中央共同募金会のHPに伊敷中生徒会の名前も載っています

代議員と会長による対談

日々、学年や学級をよりよい集団にするために活動している代議員のみなさん。各学年の学年総務のみなさんと生徒会長が一学期を振り返ってみました。

中島知希
一年学年総務

松本 優

二年学年総務

峯古泰志

三年学年総務

渡邊花蓮

中島：そろそろ、一学期も終わりますが、一学期を振り返ってみてどうですか。
松本：一年生は中学校生活に慣れていな

We love 伊敷 を目指して



学級専門班会の様子

い面もあり、何度も指導されてばかりでしたが、代議員やクラスのみなさんと協力して頑張ったこれたかなと思います。

峯古：二年生は、汎用的な資質・能力のルーブリックの活用ができるようにしました。学年朝会では汎用的な資質・能力のソシオドラマもしました。学年で目指す資質・能力をみんなで共有することで、みんなが活用できるように思っています。

渡邊：学年専門部会などでワークシートを活用しました。その結果、状況が分かりやすくなり、指名無し発表も活性化しました。今後は、学年専門班会など



の結果を学年職員室の前に貼り、より分かりやすく伝えていきたいです。

中島：それぞれの学年でいろいろな取組ができたのですね。

松本：課題としては、どんなことがあげられますか。

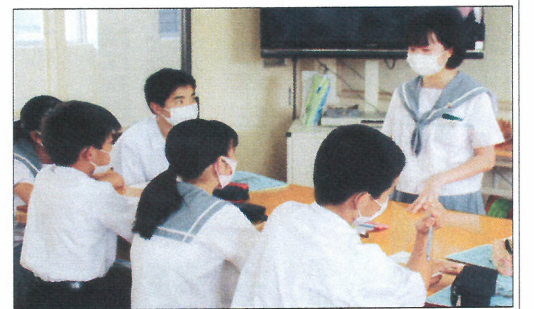
中島：課題は、はし忘れが多かったり無言作業ができていないところですね。前期の間に改善できるようにしたいです。

峯古：私語が多かったり、メリハリが付いていなかったりしました。班長会などを行っていましたが、また改善にできていません。学習態度が多いので、各専門班の班長と協力して解決していきたいです。

中島：班長会は大事ですね。班長のみなさんと同じ課題を共有できると思います。リーダー研修会でも班長会の意義について話をしよう



学年専門班会の様子



学校専門班会の様子

とっています。三年生はどうですか。

渡邊：発表する人の固定化と発表するときの声の大きさが課題です。あとは、話合いの時間が長くなってしまったり、指示を聞いて動くのが遅かったりすることが課題です。そこを代議員で話し合って改善していけるようにしたいです。

中島：それぞれの学年の代議員のみなさんが自分たちの様子をよく観察しているということが

分かってよかったです。みんなが伊敷中のことを好きだと言えるような学校にできるよに、二学期も頑張っていきましょう。

いい集団は、リーダーの力だけでは創れません。周りのフォロワーの存在が大事です。学年全員が、伊敷中生全員が一つになってい集まりのことなので、伊敷中学校も組織の一つです。

戦争と平和について考える、本から平和について学ぼう

今年も8月がやってきます。8月6日の広島原爆の日、8月9日の長崎原爆の日、そして、8月15日の終戦記念日。8月は、日本にとって、戦争と平和を考える大切な月ではないでしょうか。

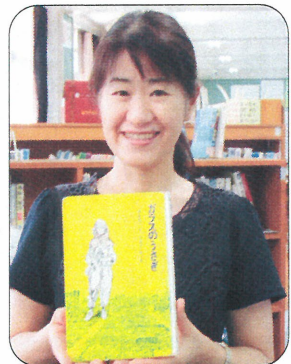
伊敷中学校では、二年生が総合的な学習の時間で「平和」について探究しています。この夏、二年生だけではなく、ぜひたくさんの人たちに平和について考えてほしいと思います。そこで、今回は、本から平和について学ぶため、二人の先生にお薦めの本を教えてもらいました。

鹿島先生お薦めの本

ガラスのうさぎ

戦争で家族を失った実体験に基づいた話です。

筆者は当時12、3歳。みなさんと同じ年頃に体験したことがつづられているので、当時の思いがより一層伝わってくると思います。私も確か中学生のときに初めて読みました。戦争の悲惨さ、困難に立ち向かう姿勢、他人同士の助け合い等、たくさん考えさせられる本です。



上妻先生お薦めの本

つる さだこの願い

赤ちゃんのときに広島原爆で被爆した佐々木さだこさん。中学校のリレー選手になる夢をもって精一杯頑張っていたさだこさんを突然めまいが襲い、入院します。親友の勧めで折り始めた折鶴。千羽、折鶴を折れば、病気は治ると



信じて懸命に生きたさだこさん。さだこさんの折鶴に込められた思いに寄せて、今も原爆資料館には折鶴が奉納されています。折鶴から、原爆について、戦争について、生きることについて考えることができる絵本です。

ISOって何？

前回ISOには、「モノの規格」と「マネジメントシステムの規格」があると説明しました。マネジメントシステムって何だろう。と思った人もいるでしょう。マネジメントシステムが重要なのは、「組織」です。「組織」とは、二人以上の集まりのことなので、伊敷中学校も組織の一つです。

組織内には様々な人がいます。組織内の人々が同じ目標に向かって動いてもらうためには「管理(マネジメント)」が必要ということ。マネジメントシステムとは、目標を達成するために組織を適切に管理する仕組みとことです。この「管理する仕組み」に関する国際的な基準が示されているのです。

伊敷中でも採用しているのが「ISO14001」環境マネジメントシステムです。詳しくは次号で。(武 大叶)

編集後記

今回の翌檜新聞は生徒会活動につながる記事を多く取り上げました。生徒会活動は、生徒会役員だけの力では成り立ちません。みなさんにも一人一役や週番活動などがあります。二学期からも全員が生徒会活動にしっかりと取り組みましょう。(宮ノ前那海)